

教育

ウクライナ侵攻 中高生の思いとは

県内2校の生徒に聞く

啓明学院中学校・高等学校 浜脇中学校

ロシアによるウクライナ侵攻が始まって1カ月あまり。メディアでは連日、現在進行形の戦争が報じられている。「え、マジ? ゲームちゃん?」「歴史の授業でしか知らなかった」「本物の戦争に中高生たちは何を思っているのか。兵庫県内2校で話を聞いた。(鈴木久仁子)

神戸市須磨区の啓明学院中学校・高校。指宿力校長は3月11日、校長室の横に大きなボードを掲げ「平和を願う皆さんのメッセージを書いて」と呼びかけた。高校2年の生徒会長、東雲洗樹さんは「生徒会でも、ウクライナ支援をしたいと思ったが、募金が武器となってロシア兵の命を奪うことになったら」と思うと「できなかった。すぐにボードに付箋で「ウクライナにもロシアにも平穏な日々が戻りますように」と書き込んだ。

今回の侵攻には意外な思いもあった。「遠い国だし、日本の若い世代は無関心かと思ったが、ツイッターや会員制交流サイト(SNS)にもすごく反応していた。初めて、同時代に起こっていることだと実感した」

同校では広島市の平和記念資料館を訪れたり、戦争の語り部から話を聞いたり、平和学習を続けている。「この経験がベールになり、高校生の自分に何ができるのか、リアルに考えるようになった」。付箋はまたたくさん増え、現在は170を超える。「武力ではなく会話で」「戦争は大人が始めて子どもが戦う」「歴史に学んで」と反戦への思いがあふれている。



浜脇中学校の2年生が 寄せた主なメッセージ

- ウクライナ侵攻に反対しているロシア人へー私たち中学生が戦争に反対しても政府は動かない。反対してくれているロシア人に勇気をもらっている
- 拘束されても反対している人がいる。全員が賛成しているんじゃないんだと気づいた
- ウクライナの中学生へー日本の学校が受け入れるなら歓迎します。本当のウクライナの現状をもっと知りたい
- なぜ何も悪くない人が心や体に傷を負わなければならないのか。同じ中学生が我慢していることを誇りに思う
- ウクライナの人たちへー学校で戦争を学んだけれど、教科書の資料は古く戦争は昔というイメージ。平和だと思っていた世界は実際、あまり平和ではなかった。早く平和な世界に
- 日本にウクライナ人のユーチューバーがいます。父のために武器を買ったと書いてあった。悩んだと思う。ぼくらにできることは思い付かない。いつも通り過ごし、戦争が早く終わることを祈っています
- 岸田総理へー領土問題の戦争だ。日本も過去にはいろいろあったが、他国からも戦争放棄っていいなと思われるような国をつかってほしい。ぼくもがんばる
- 避難民を受け入れてほしい

ウクライナ、ロシア両国の平和を願う啓明学院高の東雲洗樹生徒会長。メッセージには名前を明記したほかロシア語で書かれたものもある。神戸市須磨区横尾9

平和願うメッセージ「自分に何ができるか」

西宮市立浜脇中学校の2年生は社会の授業で、ロシアとウクライナの歴史や地理、歴史的経緯などを学び、メッセージを寄せた。

共通するのは「早く多くの命を救って」「命を大切に生き残って」「今すぐ停戦を」などと平和を願う意見。「自分たちに何ができるのか」「西宮で避難民の受け入れを」と異国の地で抱くもどかしい思いをつづる生徒も目立った。また、「ロシア人も戦争反対を」「国連の出番では?」といった声も相次いだ。メッセージを寄せた2年生の池田菜さんや小溝裕雅さんは「新聞やネットで分からないことも、授業なら先生に聞けたし、ほかの人の意見で勉強したり、驚いたりした」と明かし、横田椿さんは「このメッセージをウクライナの人に届けたい」と訴えた。



ウクライナ侵攻を社会の授業で学ぶ浜脇中の2年生。西宮市宮前町